

令和4年6月16日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）更なる「学びの変革」への取組について

今年度からは農業高校のアップデートにも取り組むとのことであり、非常に興味深いところであるが、具体的にどのように取り組むのか、また教育長は、知事から「この教育改革を何年でやるのか」と聞かれ「5年でやります」と答えたとのことだが、5年目の今年度、更なる学びの変革にどう取り組んでいこうと考えているのか、併せて教育長へ伺う。

（答）

農業高校のアップデートにつきましては、Society 5.0時代の変化の激しい時代に柔軟に対応し、持続可能で創造的な農業や地域振興を牽引していくことができる生徒の育成を目指したカリキュラム開発などに取り組んでいるところでございます。

具体的には、今年度、「農業高校で学ぶことは自身の将来にどのような価値をもたらすのか」という本質的な問いを通して、農業の魅力や農業を学ぶ意義を感じさせる学習を行っております。

その学習を基に、次年度から地域をフィールドに、産業界と連携し、最新のドローン等を活用した高品質な作物を栽培する技術の研究や、大学と連携し、地域の特産品を開発するなどのプロジェクト学習に取り組むこととしております。

次に、更なる「学びの変革」につきましては、平成30年度から、全ての小・中・高等学校が、児童生徒の主体的な学びへとつながる「課題発見・解決学習」に取り組み、令和2年度には、各学校において、児童生徒の主体的な学びの実現を目指すカリキュラムを実践する体制を整え、各教科等の授業づくりを組織的に進めております。

令和3年度からは、こうした取組の成果を基に、児童生徒の「主体的な学び」を更に深化させるため、「本質的な問い」によるカリキュラムの開発や教員の資質の向上に取り組んでいるところでございます。

例えば、令和元年度から順次、商業高校、工業高校、農業高校と専門学科で先行的に開発・実践してきた「本質的な問い」による探究的な活動を核としたカリキュラムを、今年度は、普通科や総合学科の高校にも広げております。

また、「学びの変革」を先導的に実践する学校として開校した広島叡智学園の取組を、広く県内に普及するため、プロジェクト学習の取組や、デジタル機器の効果的な活用などの先進的な取組について、年間300人の教員による視察を実施しております。

こうした取組により、全ての児童生徒に、生涯にわたって学び続ける力を育成していくことを目指し、「学びの変革」に全力で取り組んでまいります。